

陸連時報 第三

2021
令和3年

1

月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

| | |
|---|-----|
| 理事会報告 | 182 |
| 2020 数字で見る陸上競技Vol.3 都道府県別日本スポーツ協会公認スポーツ指導者数 (陸上競技) (日本陸上競技連盟事務局) | 185 |
| ジャパンレースディレクターズミーティング2020実施報告書 (日本陸上競技連盟事務局 RunLink課 畔蒜洋平) | 186 |
| 事故を防ぐ3つのポイント (日本陸上競技連盟 指導者養成委員会) | 188 |
| 大会観戦ガイド | 189 |
| 陸協NEWS | 192 |
| 事務局からのお知らせ | 194 |

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わさせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

理事会報告

第64回理事会

日時：2020年11月12日（木）

14時00分～16時08分

場所：JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階

日本陸上競技連盟会議室

開催方法：WEB会議システムを用いて開催

【議事内容】

理事総数29名中出席者24名にて、理事会の成立を風間事務局長が報告。横川会長が挨拶し、引き続き、議事進行に入る。

〈協議事項〉

1. 2021年度主要競技会日程

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、2021年度主要競技会日程が承認された。

なお、2021年度、第105回日本陸上競技選手権大会・10000mは静岡陸上競技協会を主管として小笠山総合運動公園静岡スタジアム、2021年度から3年間の第15回～第17回JOCジュニアオリンピックカップU18陸上競技大会、第52回～第54回JOCジュニアオリンピックカップU16陸上競技大会、第105回～第107回日本陸上競技選手権大会・リレー競技は愛媛陸上競技協会を主管として愛媛県総合運動公園陸上競技場で開催することが承認された。（本連盟WEBサイト<https://www.jaaf.or.jp/files/upload/202011/2021calendar.pdf> 参照）

※2021年度主要競技会日程は、2021年3月に開催する本連盟理事会において最終承認されるため、資料は案のままとする。

2. 会員登録に関する規程の改正

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、定款細則の改正及び登録会員規程の改正が原案通り承認された。（会員登録に関しては、本連盟WEBサイト<https://www.jaaf.or.jp/about/entry/> 参照。登録料に関しては、本連盟WEBサイト<https://www.jaaf.or.jp/about/fee/> 参照）

3. 東京2020オリンピック競技大会

リレー種目における日本代表選手選考方針

麻場強化委員長より資料に基づき説明があり、東京2020オリンピック競技大会リレー種目における日本代表選手選考方針が原案通り承認された。（承認された選考方針は、本連盟WEBサイトhttps://www.jaaf.or.jp/files/upload/202011/13_141748.pdf 参照）

4. シレジア2021世界リレー 日本代表選手選考要項

麻場強化委員長より資料に基づき説明があり、シレジア2021世界リレー日本代表選手選考要項が原案通り承認された。（承認された選考要項は、本連盟WEBサイトhttps://www.jaaf.or.jp/files/upload/202011/13_141511.pdf 参照）

5. ソンクラー 2021アジアリレー選手権大会

日本代表選手選考方針

麻場強化委員長より資料に基づき説明があり、ソンクラー 2021

アジアリレー選手権大会日本代表選手選考方針が原案通り承認された。（承認された選考方針は、本連盟WEBサイトhttps://www.jaaf.or.jp/files/upload/202011/13_141500.pdf 参照）

6. 南京2021世界室内陸上競技選手権大会

日本代表選手選考要項の改正

麻場強化委員長より資料に基づき説明があり、南京2021世界室内陸上競技選手権大会日本代表選手選考要項の改正が原案通り承認された。（承認された選考要項は、本連盟WEBサイトhttps://www.jaaf.or.jp/files/upload/202011/13_141244.pdf 参照）

7. 杭州2021アジア陸上競技選手権大会

日本代表選手選考方針の改正

麻場強化委員長より、杭州2021アジア陸上競技選手権大会日本代表選手選考方針の改正の説明があり、選考要項に関する部分について、アジア陸上競技連盟より未着である大会要項が届き次第、早急に選考要項を作成したいとの意向から専務理事承認で進めることが承認された。

8. 第105回日本陸上競技選手権大会

（混成競技・10000m含む）参加資格

麻場強化委員長より、第105回日本陸上競技選手権大会の参加資格の方向性の説明があり、以下の4点が承認された。

- ①参加資格の対象期間を2019年1月1日からとすること。
- ②ターゲットナンバー制を導入し、参加人数を決めて参加資格記録を突破している上位の者から順番に選ぶという形にすること。
- ③指定競技会プラスB標準記録の設定は採用しないこと。
- ④強化委員会の推薦する者あるいは開催地の推薦する競技者の条項は削除すること。

なお、今後改めて、第105回日本陸上競技選手権大会（混成競技・10000m含む）参加資格を理事会において決定する。

9. 指導者養成指針の策定

山本指導者養成委員長より資料に基づき説明があり、指導者養成指針が原案通り承認された。（資料1参照）

10. 2021年度以降の日本陸上競技選手権大会・マラソン年度指定への切り替えについて

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、日本陸上競技選手権大会・マラソンについて、対象競技会の指定を2021年度、第105回以降、年度指定に切り替えることが原案通り承認された。

11. ロードレースにおけるネットタイムの取り扱いについて

鈴木競技運営委員長より資料に基づき説明があり、ロードレースのネットタイムの取り扱いが原案通り承認された。

承認された改正点は_____部分。

○公認の道路競走競技会における公認記録の扱い

公認の道路競走競技会においては、登録者と未登録者が混

在して競技を行うことが認められている。その中で、公認記録となるのは、本連盟登録会員だけである。道路競走競技会においては、グロスタイム（スタートの号砲からフィニッシュまでの時間）とネットタイム（スタートラインを通過した時からフィニッシュまでの時間）が表示されることがある。

その中で公認記録となるのはグロスタイムだけである。また、競技会の参加標準記録として使用できるのは、グロスタイムだけである。

○公認の道路競走競技会における運営

- ・主催者は、エントリーの際に競技者の登録の有無を確認する。
- ・プログラムに登録者であることがわかるように表示する。登録者は所属団体名・登録都道府県名を表記する。未登録者は所属名を表記しないことが望ましい。
- ・登録者として出場するためには、エントリー時と競技会実施時の双方において登録会員であることが条件となる。
- ・スタートの並び順は、登録者と未登録者を分けて整列させる必要はなく、安全な競技運営の観点から登録者、未登録者に関わらず参加者の持ちタイム順に並べることが望ましい。したがって、登録者と未登録者の参加資格（制限タイム）を別のものに設定することは望ましくない。
- ・ウェーブスタート（時差スタート）を実施する場合は、ウェー

ブごとにグロスタイムとネットタイムを計測することとする。
・ネットタイムを計測した競技会においては、記録の申請は電子申請を行い出場した全てのランナーのグロスタイム、ネットタイムを提出すること。

〈報告事項〉

1. 競技会における広告および展示物に関する規程の改正
鈴木競技運営委員長より資料に基づき、競技会における広告および展示物に関する規程の改正が報告された。
2. 理事の辞任について
横川会長より、2020年9月30日付けでの室伏広治理事の理事辞任が報告された。
3. 代表理事、業務執行理事の職務執行状況
横川会長及び尾縣専務理事より資料に基づき、2020年3月20日から2020年11月12日までの代表理事、業務執行理事の職務執行状況が報告された。
4. JAAF中長期計画プランの策定
尾縣専務理事より資料に基づき、JAAF中長期計画プランの策定の概要が報告された。
5. 7月以降の競技会再開に関する実態調査
尾縣専務理事より資料に基づき、2020年7月以降の競技会開催実態調査の取りまとめが報告された。

【資料1】

日本陸上競技連盟 指導者養成指針

指針策定の背景

日本陸上競技連盟（以下「本連盟」という）が発行した『JAAF VISION 2017』では、陸上競技の価値に関して詳細な説明を試みている。それによれば、陸上競技は「さまざまなスポーツの基礎となる」要素で満たされ、「場所やレベルに関わらず、する人、みる人を感動させる」力を持ち、「人々のライフスタイルをアクティブにする」とされる。私たちが共有するこの価値をさらに高め、上げていくために、本連盟は、トップアスリートの活躍で国民に夢と希望をもたらす「国際競技力の向上」と、すべての人が陸上競技を楽しむ「ウェルネス陸上の実現」というミッションを掲げ、なお具体的な数値目標を設定した。

- ・2028年までに世界のトップ8、2040年までに世界のトップ3（アジアのNo.1）を目指した競技者の育成・強化を推進する。
 - ・アスレティックファミリー（競技会参加者、審判、指導者）を2028年までに150万人、2040年までには300万人に拡大させる。
- 二つのミッションを通じて表明した数値目標を達成するためには、競技者の育成や強化はもとより、陸上競技に関わるアントラージュ¹⁾の拡充が急務である。

2018年に策定された『競技者育成指針』には、「一人でも多くの人が陸上競技を楽しみ、極め、また少しでも長く続け、そして関わることが望まれる」と謳われているが、その牽引役を務めるのは指導者において他にない。指導者は、競技者の体験・経験のプロセスに、あるときは直接に、またあるときは間接的に関わり、競技継続や関与への動機づけにも大いに影響を及ぼす点で、アントラージュの中でもとりわけ重要な存在である。加えて、「あらゆる年齢区分における質の高いコーチングの提供」や「国際的な競技力向上のための適切な強化施策の実施」などを効果的に推し進めるには、指導者の数を増やししながらその質を更に向上させるための計画的かつ継続的な養成に向けた施策を検討しなければならない。

陸上競技の指導はいかにあるべきか、指導者はどのように育てられるのか。陸上競技に関わる全ての人の理解あって初めて、道は確かなものとなる。万人に向かって指針をここに示すゆえんである。

本連盟が養成すべき指導者とは

近年、スポーツの現場では、指導者の重要性がより強く意識されるようになってきている。世界がしのぎを削る国際的な舞台は言うまでもなく、あらゆる世代の人々が、自らの関心や適性等にに応じて、日常的にスポーツを楽しむためにも、求められる役割に応じて適切に対応できる優れた指導者の存在が不可欠だと再認識したからである。

社会はどんな指導者を求めているのか。「ライフステージに応じた多様なスポーツ活動を推進することのできるスポーツ指導者」を認定する日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者資格認定方針（ディプロマ・ポリシー）では、スポーツの価値や未来への責任を理解し、スポーツの本質的な意義や価値の伝達を通して、豊かなスポーツ文化の創造や社会的価値の向上に貢献できる資質・能力の獲得を資格認定要件としている。

ひるがえって焦点を私たちのスポーツに絞ってみよう。陸上競技は、走・跳・投という人間の基本的な運動で構成されているため、生涯にわたるあらゆる身体活動（運動・スポーツ）の基盤となる身体リテラシー²⁾を育む上で最適なスポーツだという認識が強い。また、陸上競技の醍醐味は、年齢や競技レベルを問わず、記録という客観的な指標の追求を通して、他者や自分自身との競争を楽しみ、卓越や達成の喜びを得るところにある。

本連盟は、このような陸上競技のもつ特性を踏まえて、以下の資質・能力を身に付けた指導者（コーチ）を養成するためのカリキュラムおよびシステムを構築し、その学びを支援することを目指す。

- ✓陸上競技というスポーツおよび競技者の未来への責任を自覚するとともに、陸上競技の本質的な価値や楽しさを伝えることにより、アスレティックファミリーの拡充に貢献する。
- ✓コーチング理論やスポーツ医・科学の知見を活かし、幼少年期からのスポーツライフステージや競技レベルに応じた適切で質の高い指導（コーチング）を実践する。
- ✓競技者の人間的な成長と競技力の向上を多面的に支援するために、アントラージュ間の連携を深めながら、常に学び続ける。
- ✓暴力やハラスメントなどあらゆる反倫理的行為を排除し、豊かな

スポーツ文化の創造や社会的価値の向上に貢献する。

なお、本指針では、これ以降、陸上競技の指導に関わる全ての人（およびその実践）を「指導者（指導・支援）」と呼び、本連盟の指導者養成カリキュラムを修めた資格取得者（およびその実践）を「コーチ（コーチング）」と呼ぶ。

指導者を取りまく現状と課題

① 陸上競技および競技者の特性を踏まえる

指導者は、全ての運動・スポーツの基礎となる身体リテラシーを育むために、走・跳・投種目の運動特性を理解し、各種目を指導するための幅広い知識・技能を身につけることが求められる。また、陸上競技は、他のスポーツと比べて専門化が遅いという特徴をもつ競技であるが、高校から新たに陸上競技を始める競技者も多くいる一方、中学生登録者の高校進学後の継続率は決して高くない。これらのことから、指導者には、常に競技者一人一人の競技プロセスに寄り添いながら、その年代、性別、競技レベルなどの特性に応じた適切な指導・支援が期待されている。とりわけ発育発達の個人差が大きい幼少年期の子どもを含むジュニア競技者を対象とする場合には、陸上競技の楽しさを伝えることを通じた運動有能感^{注3}の涵養などにも十分に配慮したい。

指導者は、陸上競技の走・跳・投種目の指導に関する専門的な知識・技能に加え、競技者の生涯にわたるスポーツキャリアを視野に入れた指導・支援に関連する知識・技能を身につけることが必要である。

② 指導者の資質・能力および指導（コーチング）の質

指導者のすべき仕事は、競技パフォーマンスの目標やトレーニング課題の設定にはじまり、トレーニング計画の立案から実施、試合に向けた準備、さらには適切かつ安全なトレーニング環境の整備や競技者を取りまく人間関係の構築など多岐にわたる。そのため、必要な知識・技能をバランスよく身につけることが求められる。また、行き過ぎた勝利至上主義や指導者と競技者との間の勢力構造（上下関係）に基づく倫理的に不適切な言動、非合理的なトレーニング、さらにはドーピングをはじめとする人為的に競技力を高めようとする行為も後を絶たない。こうした行動は、競技者の身体的、精神的および社会的な成長を阻害するだけでなく、ひいてはスポーツの価値を貶めることに直結するものであり、競技横断的に重要とされる知識・技能についての十分な学習機会が設けられていないこともその一因といえる。

指導者は、アスリートセンタードの理念に基づき、コーチング理論やスポーツ医・科学の知見を活かした質の高い指導を行いながら、スポーツのインテグリティ（健全性）の維持・向上に貢献する強い信念が必要である。

③ 継続的な学習支援

指導者には、常に新たな課題を発見し、その解決法を導き出すことが求められる。アスリートがより良い結果を求めてトレーニングに工夫を凝らすように、指導者にも最善を求めてやまない日が続くことがある。そんな時には、過去の経験と照らし合わせながらも、最新の情報を入手し、幅広い知見を取り入れるなど臨機応変な対応が求められる。一方で、自身の指導・支援の最適化に向けて学び続けることの重要性を認識しながらも、実際には自らが競技者として経験してきたコーチングの在り方に影響され、新しい知識・技能に向き合えなかった経験はないだろうか。

競技環境の改善や充実にあたっては、競技者（チーム）に関わる全てのアントラージュの連携・協働が欠かせないが、指導者と競技者との関係を基本とする個人およびチームの活動は、外部との接触機会を持ちにくく、内部事情が表面化されにくいため、その関係も独立的で閉鎖的になりがちである。指導の現場で優れたコミュニケーション能力が求められる理由はこんな所にもあるが、コーチ資格を取得した後の学習はコーチ自身の裁量に委ねられており、組織的な学習機会の提供や情報発信などのフォローアップは不十分である。

指導者が、競技者のニーズに応じた適切な指導・支援のための体系的な学習内容および方法の開発や学習機会の充実を図るとともに、より多くの指導者がコーチの養成過程を経るよう、広く促す体制を整えたい。

コーチ養成システムの再構築に向けて一全ての指導者にコーチ資格を

本連盟は、陸上競技の指導現場に立つすべての指導者がコーチ資格の取得を目指し、資格取得後も継続的に学習できる環境を整備するために、以下の内容を踏まえたコーチ養成システムを再構築する。

① 陸上競技と競技者の未来を支援できるコーチの養成

陸上競技および競技者の未来への責任を自覚するとともに、陸上競技の本質的な価値や楽しさを伝え、アスレティックファミリーの拡充に貢献できるコーチを養成する。

- ・「競技者育成指針」に示された育成・強化ステージに応じて、走・跳・投種目のテクニカルモデル^{注4}に基づく適切なコーチングを実践する知識・技能を身につけるための体系的なカリキュラム開発や学習機会の充実を図る。
- ・学習した知識・技能が現場で活用されるような指導プログラムや安全対策ガイドライン等を提示することにより、学校体育や運動部活動、スポーツクラブでの適切かつ安全な活動を支援する。
- ・身体リテラシーを育む上で最適なスポーツという特性を踏まえて、陸上競技以外の様々な競技スポーツのパフォーマンス向上にも寄与できるコーチの養成および活用を推進する。

② 競技横断的に求められる資質・能力を有したコーチの養成

コーチング理論やスポーツ医・科学の知見を活かし、幼少年期からのスポーツライフステージや競技レベルに応じた適切で質の高い指導（コーチング）を実践できるコーチを養成する。

- ・アスリートセンタードの理念に基づき、発育発達の個人差や相対的エネルギー不足（RED-S^{注5}）などに配慮した適切なコーチング（トレーニング）を行うために必要な知識・技能を得るための学習機会の充実を図る。
- ・一人でも多くの指導者のコーチ資格取得を推進するために、コーチ資格制度の周知や資格取得を奨励する取り組みを実施するとともに、コーチ養成カリキュラムの改善・充実を図る。
- ・高度な専門性を有するコーチを養成するために、コーチングやトレーニングに関する最新の研究成果や国際的な動向などを収集し、コーチ養成システムに迅速に取り入れるとともに、コーチ資格の取得者に対しても素早く情報を発信する。
- ・新たなコーチ資格の設定および資格取得者の拡充に向けて、都道府県陸上競技協会や大学等の各種教育機関との連携によるコーチ養成講習会を全国展開する。

③ 学び続けるためのコーチ養成システムの構築

競技者の人間的な成長と競技力の向上の多面的な支援に向けて、指導者がアントラージュ間の連携を深めながら常に学び続けることのできる環境を整備する。

- ・リモート学習を含めた各種研修会やクリニックを積極的に開催するなど、コーチ資格取得後の研修制度の充実を図る。
- ・トップレベルからグラスルーツまでのコーチの人材交流や情報交換の場を設定し、コーチ同士のネットワークの形成、共に学び合えるコーチコミュニティの創出を促進する。
- ・国際競技力の向上に係わるコーチの海外研修制度の充実や海外コーチの招聘などを積極的に推進し、国際的にも貢献・活躍できるコーチの学びを支援する。
- ・コーチの養成に係わるコーチ育成者やクリニックや講習会における講師の養成を進めるなど、コーチ資格取得者を積極的に活用する。

注1：アントラージュ

競技者が競技力を最大限に発揮するための支援や、競技環境の整備などを行う関係者。例えば、指導者、トレーナー、医療スタッフ、科学者、家族、競技団体の役員、審判員などが含まれる。

注2：身体リテラシー

さまざまな身体活動、リズム活動（ダンス）、スポーツ活動などを、自信をもって行える基礎的な運動スキルおよび基礎的なスポーツスキル。身体リテラシーには、運動を楽しむ、有能感（Competence）をもって、意欲的に行えるといった心理的な側面、あるいは仲間と協調したりコミュニケーションしたりできる社会的側面も含まれる。この身体リテラシーが身につくことによって、生涯を通じて健康的で活発なライフスタイルを送ることが期待できる。

注3：運動有能感

身体的有能さの認知（自身の能力や技能に対する自信）、統制感（努力をすればできるようになるという自信）、受容感（仲間から受け入れられているという自信）という3因子から構成される有能感。

注4：テクニカルモデル

各種目における基本的な動作および技術的要素を示した動作（指導）モデル。

注5：RED-S（Relative Energy Deficiency in Sport）

スポーツ活動中の消費エネルギーに対する摂取エネルギー不足によって生じる心身全般の健康問題に影響する相対的エネルギー不足の概念。相対的エネルギー不足とそれによって生じる骨粗鬆症と無月経を合わせて女性競技者の三主徴と定義されている。

2020 数字で見る陸上競技Vol.3 都道府県別日本スポーツ協会公認スポーツ指導者数(陸上競技)

日本陸上競技連盟事務局

陸上競技における日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格(陸上競技コーチ1、2、3、4)の都道府県別有資格者数(2020年10月1日付の登録者数)です。

日本陸連では、陸上競技の指導はいかにあるべきか、指導者はどのように育てられるのか、といった道筋をまとめた「指導者養成指針」を策定しました。今後、陸上競技の指導現場に立つ全指導者の公認指導者資格取得や、継続的に学習できる環境整備を目指して、コーチ(有資格指導者)の養成および養成システムの再構築を図っていきます。

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格 陸上競技 2020年10月1日付登録者数

| NO. | 都道府県 | JAAF公認ジュニアコーチ | | JAAF公認コーチ | | 合計 |
|-----|------|---------------|------|-----------|------|-------|
| | | コーチ1 | コーチ2 | コーチ3 | コーチ4 | |
| 1 | 北海道 | 120 | 0 | 17 | 7 | 144 |
| 2 | 青森 | 75 | 1 | 18 | 4 | 98 |
| 3 | 岩手 | 69 | 0 | 28 | 7 | 104 |
| 4 | 宮城 | 80 | 0 | 10 | 1 | 91 |
| 5 | 秋田 | 47 | 0 | 13 | 0 | 60 |
| 6 | 山形 | 97 | 0 | 20 | 5 | 122 |
| 7 | 福島 | 126 | 0 | 30 | 3 | 159 |
| 8 | 茨城 | 59 | 0 | 30 | 11 | 100 |
| 9 | 栃木 | 45 | 0 | 22 | 4 | 71 |
| 10 | 群馬 | 89 | 1 | 24 | 3 | 117 |
| 11 | 埼玉 | 196 | 2 | 50 | 12 | 260 |
| 12 | 千葉 | 128 | 3 | 45 | 8 | 184 |
| 13 | 東京 | 321 | 3 | 83 | 22 | 429 |
| 14 | 神奈川 | 180 | 0 | 30 | 9 | 219 |
| 15 | 山梨 | 34 | 11 | 16 | 4 | 65 |
| 16 | 新潟 | 96 | 5 | 27 | 4 | 132 |
| 17 | 長野 | 85 | 2 | 38 | 5 | 130 |
| 18 | 富山 | 95 | 0 | 13 | 1 | 109 |
| 19 | 石川 | 59 | 1 | 10 | 2 | 72 |
| 20 | 福井 | 60 | 0 | 20 | 2 | 82 |
| 21 | 静岡 | 128 | 5 | 27 | 6 | 166 |
| 22 | 愛知 | 108 | 0 | 49 | 4 | 161 |
| 23 | 三重 | 100 | 1 | 32 | 4 | 137 |
| 24 | 岐阜 | 59 | 5 | 15 | 2 | 81 |
| 25 | 滋賀 | 56 | 0 | 28 | 4 | 88 |
| 26 | 京都 | 75 | 0 | 35 | 5 | 115 |
| 27 | 大阪 | 151 | 3 | 17 | 3 | 174 |
| 28 | 兵庫 | 111 | 0 | 25 | 1 | 137 |
| 29 | 奈良 | 35 | 0 | 18 | 1 | 54 |
| 30 | 和歌山 | 78 | 0 | 9 | 4 | 91 |
| 31 | 鳥取 | 39 | 0 | 8 | 1 | 48 |
| 32 | 島根 | 28 | 0 | 7 | 3 | 38 |
| 33 | 岡山 | 46 | 0 | 14 | 5 | 65 |
| 34 | 広島 | 134 | 3 | 28 | 6 | 171 |
| 35 | 山口 | 79 | 2 | 12 | 4 | 97 |
| 36 | 香川 | 43 | 0 | 21 | 3 | 67 |
| 37 | 徳島 | 37 | 1 | 13 | 1 | 52 |
| 38 | 愛媛 | 40 | 0 | 22 | 4 | 66 |
| 39 | 高知 | 36 | 1 | 15 | 1 | 53 |
| 40 | 福岡 | 105 | 1 | 21 | 8 | 135 |
| 41 | 佐賀 | 43 | 0 | 15 | 1 | 59 |
| 42 | 長崎 | 57 | 7 | 17 | 2 | 83 |
| 43 | 熊本 | 53 | 1 | 15 | 4 | 73 |
| 44 | 大分 | 40 | 12 | 17 | 0 | 69 |
| 45 | 宮崎 | 91 | 2 | 19 | 0 | 112 |
| 46 | 鹿児島 | 79 | 0 | 31 | 1 | 111 |
| 47 | 沖縄 | 39 | 1 | 1 | 2 | 43 |
| 合計 | | 3,951 | 74 | 1,075 | 194 | 5,294 |

ジャパンレースディレクターズミーティング2020実施報告書

日本陸上競技連盟事務局 RunLink 課 畔蒜 洋平

【開催要項】

開催テーマ：コロナ禍でのロードレース開催

開催日時：2020年10月19日（月）15：00～16：30

開催方法：オンライン開催（ZOOM）

あいさつ 日本陸上競技連盟 専務理事 尾縣 貢

第1部：日本陸上競技連盟のコロナ禍での対応

- ・日本陸上競技連盟のガイダンス策定の経緯とアンケート結果の共有

日本陸上競技連盟 事業部RunLink 課 畔蒜 洋平

- ・Track&Fieldの対応の共有（セイコーゴールデングランプリ陸上、日本選手権のコロナ対応）

日本陸上競技連盟 事業部事業課長 吉澤 永一

第2部：各大会の準備状況

- ・ディスカッション①（福岡国際マラソン、名古屋ウィメンズマラソンの準備状況）
- ・ディスカッション②（湘南国際マラソンの準備状況）

【議事録】

1. あいさつ 尾縣貢（日本陸上競技連盟 専務理事）

- ・日本陸連としては、6月末までの大会の中止・延期をお願いし、7月から競技会を順次開催した。
- ・7月のホクレンディスタンスを皮切りに、8月のゴールデングランプリ、10月の日本選手権と開催し、事後の感染者の報告は受けていない状況である。
- ・これからは本格的なロードレース競技会が開催されていく。開催については、沿道対策などTrack&Field以上に大変なものがある。
- ・難しさは理解しているが、是非ロードレースの再開について進めて頂きたい。
- ・現在も既に開催に向けて準備をしている大会がある。その情報を是非共有頂きたいと思う。
- ・日本陸連は、公認大会も、非公認大会もすべての大会の力になれるように努力していきたい。
- ・日本陸連は、ガイダンスを出しているが、このハードルが高いということも聞かれている。ガイドラインではなく、ガイダンス（手引）とさせて頂いており、各大会のコロナ対策室にて、各大会や各地域の事情、実情に合わせて判断して頂きたいと思う。
- ・ガイダンスを中止の理由にするのではなく、是非利用して開催して頂きたいと思う。

2. 第一部 日本陸上競技連盟の新型コロナウイルス感染症対策

①ガイダンスの趣旨、6月実施のアンケート調査結果の共有

日本陸上競技連盟 事業部RunLink 課 畔蒜 洋平

- ・日本陸連でガイダンスを作成するにあたり、日本スポーツ協会の作成されたスポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドラインに基づき、Track&Field・ロードレースに関わるものと大きく2つに分けて作成を行った。
- ・ガイダンスの改版のタイミングについて尋ねられることがあるが、基本的には政府の方針や、日本スポーツ協会のガイ

ドライン改版等に基づいて、日本陸連のガイダンスも改版を実施していく。

- ・今までも二度改版しているが、皆様のご意見踏まえ、今後も柔軟に変更加筆をしていく予定。
- ・6月に大会主催にアンケートをとった段階ではソーシャルディスタンスを考慮した運営について懸念されている大会が多かった。
- ・その次にボランティアの確保・医療従事者の確保というような人員の確保に課題を持たれていた。
- ・その他ガイダンスに盛り込んでほしい内容として、医療関係・中止時の対応・沿道対応等幅広くご要望を頂いたが、実際にガイダンスに反映させていただいたものもあれば、引き続き検討しているものもある。
- ・我々が作成したものはあくまでもガイダンスという目安であり、全国すべての大会を網羅できるものではないと思っている。
- ・各大会で、コロナ対策室を設けて頂き、大会の事情に応じた判断を改めてお願いしたい。

②GGP・日本選手権の新型コロナウイルス感染症対策

日本陸上競技連盟 事業部事業課長 吉澤 永一

- ・ガイダンスの策定は大きく2つ作成している。一つは日常活動を対象とした『日常における活動再開について』、もう一つは『競技会開催について』。
- ・陸上競技会を再開するにあたり特に注意した点として「最大限の感染症防止策」と「クラスターを発生させない」ということである。
- ・日本陸連としてもホクレンディスタンスチャレンジをはじめセイコー GGP、日本選手権等の大会を主催してきたが、感染対策について特別な対応はしておらず、基本的なことを徹底してきた。
- ・体調管理チェックシートの事前提出、事後記録を義務付けたが、こちらのチェックについても個人差があり、チェックがあった場合は連絡をして問診を実施した。
- ・健康管理チェックシートの管理が非常に大変であったので、日本選手権からアプリを用いて体温管理を行った。
- ・アプリを使って参加者は日々の体温の入力をする大会主催者側に共有され確認できるようになっているため、入力内容を陸連事務局が事前にチェックを行った。大会当日は受付で事前に健康状態を送っていた本人であるかを確認するために、アプリでQRコードを表示し、それを読み取る機械を設置して本人であり、かつ健康状態が良好な人の入場が認められる仕組みになっていた。
- ・万が一事前の健康状態のチェック項目に異常があった場合は、受付にいるスタッフが具体的な健康状況の確認を取り、会場にいる医療スタッフに当該の入場を認めて良いか確認を取った。
- ・競技会運営で実施していることは当たり前のこと（マスク着用・手指の消毒・ソーシャルディスタンス・三密回避）であり、密集を回避する競技会の設定（種目の調整や、参加人数の調整）である。

3. 第二部 各大会の検討状況

①福岡国際マラソン、名古屋ウィメンズマラソンの開催検討状況

・福岡国際マラソン

小田邦彦 朝日新聞社 オリピック バラリンピック・
スポーツ戦略室専任次長

大藤道矢 朝日新聞社 福岡国際マラソン大会事務局

・名古屋ウィメンズマラソン

北野耕示 中日新聞社 名古屋ウィメンズマラソン大会事務局長

・質問者 畔蒜洋平 日本陸上競技連盟事務局

(日本陸連)

Q 大会開催を発表するにあたり開催地の行政や地元の方々から理解を得る必要があるかと思うが、どのような説明をされ、大義名分やどのようなビジョンをもってご理解をいただくことができたのか？

(福岡国際)

福岡国際は1947年開催の大会であり、大会を始めたときの大義名分として、戦後の復興の礎となるということがあった。現在コロナ禍により社会が閉塞感に苦しんでいる状況である。そういった中で、社会に明るい光をもたらす一助になればということ掲げた。同時に、マラソンは1年に何本も走れるわけではなく、今後東京オリンピックやその先につながる有望な選手の活躍の場を提供していきたいということもエリートレースの果たす役割でもありと考えている。

(名古屋ウィメンズ)

名古屋国際女子マラソンとしてスタートした経緯もあり、2012年には名古屋ウィメンズマラソンとしてリニューアルしたが、日本のトップ選手を支える大会として位置づけられてきた。2021年は選考レースとはならないが、今後の世界選手権や、パリオリンピックを見据えて開催していくことが必要であると考えている。

(日本陸連)

Q 2021年は一般ランナーも募集することになったが、その意義はどのように捉えているか？

(名古屋ウィメンズ)

2020年大会は一般ランナーの部は中止とした。代わりにオンラインマラソンを実施し、2万2000人の方にご参加頂いた。その際、開催してくれてありがとう、来年は名古屋を走りたいとの声が聞こえた。最初から中止ということは考えておらず、どうしたら開催できるのか検討を重ねていった。地元行政も同じ方向を向いて進んで来られたと思っている。

(日本陸連)

Q 参加料の値上げは難しい判断だったと思うが、どのような経緯でその判断をされ、ランナーからはどのような反応があったか？

(名古屋ウィメンズ)

高い！ というのがランナーの第一の反応であった。2020年大会は13,850円であったものを、2021年は26,000円とした。参加人数は、22,000人から11,000人と半分にさせて頂いた。基本的には各大会を主催されている方はわかると思うが、人数が100人だろうが1000人だろうが1万人だろうが、警備等安全対策にかかる費用はほとんど変わらない。今回はコロナ対策として予算は取っているが、それを補うためには、ランナーの方にもご負担いただこうと考えていた。値上げで悩んだわけ

ではなく、いくらに設定するかで悩んだ状況である。高いという反応はあったものの、先行エントリーが終わったところであるが、ほぼ一瞬で定員になったので、ランナーからもある程度ご理解はいただけたと認識している。

(日本陸連)

Q 沿道の感染対策についてはどのように考えているか？

(福岡国際)

福岡市はじめ、警察の皆様も対策を取るよう指摘をされているところであり、事務局としても一番懸念をしているところである。今の段階では、ポスターやあらゆるメディア等を使用し広報活動を通して沿道観戦自粛の呼びかけをしている状況。感染症専門医の先生にも入って頂き、現在のコロナの状況であれば、非常な密(沿道で人垣が二重にも三重にもなるような状況)にならないければ、マスクを装着している分についてはクラスター等の発生のリスクはそこまで高くないのではという話を頂いている。地元の方にいかに沿道に出ずに自宅楽しんでいただけるかということが必要となる。従事していた方(スタッフ・競技役員)には、徹底した沿道感染対策をしなければならぬと思っている。マスクの着用、携行用スプレーの常備を検討している。また、アクセスのいい場所(地下鉄の出入り口や繁華街周辺など)には例年人も集まりやすくなっているため、密にならないようにするため人員を割くことは検討している。

(日本陸連)

Q ボランティアの人手不足が課題として挙げられる大会が多い状況だが、どのような対応をされているか？

(福岡国際)

今年の6月～7月にボランティア確保のシミュレーションをしたが、例年の6割程度しか集めることが出来ず、大きなハードルとなっていた。不足してしまう分については、地元のランニング関係者の方にお声がけをしており、例年の2倍以上の方から参加表明を頂くことができています。参加表明頂いた方の中には、これだけ大会が中止となる状況で、まずは大会を開催することに協力し、多くの方に大会開催への理解を広めていきたいというお声も頂いている。例年よりも少ない中ではあるが、ボランティアの目処が立ったこともあり、開催の発表に至った。

②湘南国際マラソンの開催検討状況

湘南国際マラソン

比企啓之 株式会社ランナーズ・ウェルネス 企画開発部 部長
給水について

- ・一切のゴミを出さないマイボトルマラソンとし、選手自身にマイボトル・マイカップを用意してスタート頂き、これを承認しないと参加できない仕組みとした。
- ・今まで利用してきたペットボトル数は31,500本、コップ50万個、フィニッシュ後のペットボトル26,000本を全て廃止。約6トンのCO₂の削減効果となる。
- ・コース上に500箇所以上(50トン分)の給水所を用意。約80mごとに給水所がある。(参考URL：<https://youtu.be/Yd7TjRqpmTo>)
- ・災害時にも役立てたいということで大会の日を、訓練の日とし、有事の際も排水貯水池から水が運べるかを訓練する予定。
- ・開催において地域に負担ばかりかけている状況であり、新たなマラソンの価値として進めている。

指導者の皆さまへ

安全に活動するため再確認をお願いします

事故を防ぐ 3つのポイント

大会や練習など陸上競技の活動中に事故が起きてしまう事例があります。安全に陸上競技に取り組み事故を防ぐために、そしてアスリートをはじめ皆が安心して楽しく活動できるよう、指導者の皆さまに再確認をお願いします。

指導者



活動時は指導者が立ち会う

指導者がいない状況で多くの事故が発生しています。指導者は、安全で危険や無理のない活動ができるよう学び、アスリートの安全確保はもちろん、指導者自身やその場を共有する人々の安全にも気を配ることが重要です。

場所



場所と用具の確認

- 安全な活動場所の確保と用器具の点検
- 他の団体との連絡・連携

時間




時間の管理

- 無理のない活動時間の確保
- 天候・気温・明るさ等の確認

定期的に確認を
お願いします

日本陸上競技連盟「安全対策ガイド」

 <https://www.jaaf.or.jp/rikuren/safety.html>

 活動を行う施設や学校等のルール

 地域や自治体が定めるガイドライン



JAAF

Japan Association of
Athletics Federations

公益財団法人日本陸上競技連盟 指導者養成委員会

大会観戦ガイド

日本陸上競技連盟主催・後援大会の中止・延期一覧

2020年11月30日現在

| 大会名 | 開催日 | 中止・延期（変更日程） |
|--|--------------|---------------|
| 2020全国高等学校リモート陸上競技選手権大会 | 7月1日～9月6日 | 新規 |
| 第66回全日本中学生通信陸上競技大会～アシックスチャレンジカップ～ “日清食品カップ” 都道府県小学生陸上競技交流大会 | 7月1日～10月31日 | 新規 |
| 第41回全日本マスターズ陸上競技選手権大会 | 10月2日～10月4日 | 延期 |
| 第75回国民体育大会 | 10月9日～10月13日 | 延期 |
| 2020長崎陸協競歩大会 | 12月13日 | 中止 |
| 第28回全国中学駅伝大会 | 12月20日 | 中止 |
| 皇后盃 第39回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会 | 1月18日 | 中止 |
| 天皇盃 第26回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会 | 1月24日 | 中止 |
| 第75回香川丸亀国際ハーフマラソン | 2月7日 | 延期（2022年2月6日） |
| 第6回全国中学生クロスカントリー選手権大会 | 2月14日 | 中止 |
| 第32回全日本びわ湖クロスカントリー大会 | 2月14日 | 中止 |
| 第55回青梅マラソン | 2月21日 | 延期 |
| 京都マラソン2021 | 2月21日 | オンラインで実施 |
| 熊本城マラソン2021 | 2月21日 | 中止 |

～第105回日本陸上競技選手権大会（2021年）開催日程・会場について～

本連盟理事会において、2021年に開催する「第105回日本陸上競技選手権大会」の開催日程・開催会場が下記の通り承認されましたので、お知らせいたします。

■【第105回日本陸上競技選手権大会・10000m】

○開催日程：2021年5月3日（月）○開催会場：袋井市・小笠山総合運動公園静岡スタジアム

■【第105回日本陸上競技選手権大会・混成競技】

○開催日程：2021年6月12日（土）～13日（日）○開催会場：長野市・長野市営陸上競技場

■【第105回日本陸上競技選手権大会】

○開催日程：2021年6月24日（木）～27日（日）○開催会場：大阪市・ヤンマースタジアム長居

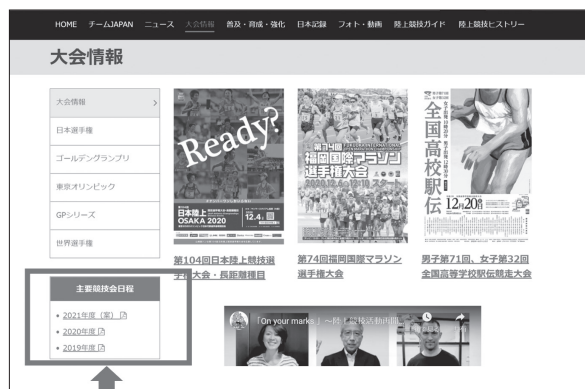
また、2021年度 主要競技会日程（案）を日本陸連公式サイト「大会情報」にて掲載しております。

▼主要競技会日程（案）はこちら

<https://www.jaaf.or.jp/competition/>



※ 主要競技会日程は、2021年3月の理事会で最終承認されます。
 ※ 今後、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、開催準備をしていきます。
 ※ 感染状況によっては中止となる場合があります。



男子第71回、女子第32回 全国高等学校駅伝競走大会

- ▼期日：2020年12月20日（日）
- ▼スタート時間：女子10：20 男子12：30 雨天決行
- ▼会場（スタート・フィニッシュ）：
京都府・京都市西京極総合運動公園陸上競技場
- ▼アクセス：京都駅より
 - ・阪急電鉄京都線西京極駅から徒歩10分
 - ・京都市営バス73号系統「西京極運動公園前」下車徒歩5分
- ▼コース：
たけびしスタジアム京都（京都市西京極総合運動公園陸上競技場）をスタート、フィニッシュとするたけびしスタジアム京都付設駅伝コース（全国高校駅伝コース）
- ▼区間と距離：
 - ・男子 42.195km 7区間
 - 第1区 10km（たけびしスタジアム京都～烏丸鞍馬口）
 - 第2区 3km（烏丸鞍馬口～丸太町河原町）
 - 第3区 8.1075km（丸太町河原町～国際会館前）
 - 第4区 8.0875km（国際会館前～丸太町寺町）
 - 第5区 3km（丸太町寺町～烏丸紫明）
 - 第6区 5km（烏丸紫明～西大路下立売）
 - 第7区 5km（西大路下立売～たけびしスタジアム京都）
 - ・女子 21.0975km 5区間
 - 第1区 6km（たけびしスタジアム京都～衣笠校前）
 - 第2区 4.0975km（衣笠校前～烏丸鞍馬口）
 - 第3区 3km（烏丸鞍馬口～室町小学校前折返し～北大路船岡山）
 - 第4区 3km（北大路船岡山～西大路下立売）
 - 第5区 5km（西大路下立売～たけびしスタジアム京都）



▼大会公式サイト：<http://mainichi.jp/koukouekiden/>

▼問い合わせ先：

全国高等学校駅伝競走大会事務局

〒604-8437 京都市中京区西ノ京東中合町1 京都市立
西京高等学校内

TEL：090-3844-3398 FAX：075-822-5702



昨年度は仙台育英高校（宮城）が男女アベック優勝

第40回大阪国際女子マラソン大会

▼日時：2021年1月31日（日）12時10分スタート

▼会場（スタート・フィニッシュ）：

大阪・ヤンマースタジアム長居

大阪市東住吉区長居公園1-1 TEL：06-6691-2500

▼コース：ヤンマースタジアム長居～昭和町～今川2～大池橋～勝山4～森ノ宮～OBP～北浜～大阪市役所～御堂筋・道頓堀橋南詰折り返し～淀屋橋～片町～大阪城公園～森ノ宮～勝山4～大池橋～今川2～昭和町～ヤンマースタジアム長居（42.195km）

※一部コース変更あり



※前回大会のポスター

▼アクセス：

ヤンマースタジアム長居
市営地下鉄御堂筋線「長居」駅、JR阪和線「長居」
駅または「鶴ヶ丘」駅下車

▼問合せ先：大阪国際女子マラソン大会事務局

TEL：06-6633-9632

▼大会公式サイト：<http://mainichi.jp/koukouekiden/>



前回大会優勝は松田瑞生（ダイハツ） 写真：フォート・キシモト

第104回日本陸上競技選手権大会・室内競技 / 2021日本室内陸上競技大阪大会

▼期日：2021年2月6日（土）9時30分競技開、
2月7日（日）9時30分競技開始

▼会場：大阪・大阪城ホール
大阪市中央区大阪城3-1

▼アクセス：
JR大阪環状線「大阪城公園」駅下車徒歩5分

▼競技種目：
※シニアの部に限り「第104回日本陸上競技選手権大会・室内競技」として開催する。



※前回大会のポスター

【2月6日（土）】

シニアの部

男子：60mH（1067mm）

女子：60mH（838mm・8.5m）、棒高跳、三段跳

U20の部

男子：60mH（991mm）

女子：60mH（838mm・8.5m）、棒高跳、三段跳

U18の部

男子：60m、60mH（991mm）、棒高跳、走幅跳

女子：60m、60mH（762mm・8.5m）、走幅跳

U16の部

男子：60m、60mH（914mm）、走幅跳

女子：60m、60mH（762mm・8.0m）

【2月7日（日）】

シニアの部

男子：60m、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳

女子：60m、走高跳、走幅跳

U20の部

男子：60m、棒高跳、走幅跳、三段跳

女子：60m、走幅跳

小学生の部：オープン競技5・6年生共通

男子：60m

女子：60m

▼問合せ先：公益財団法人日本陸上競技連盟事務局
〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-2

JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階

TEL：050-1746-8410

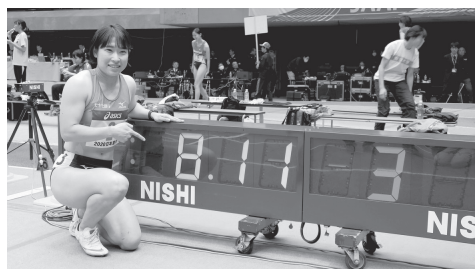
（小学生の部については、大阪小陸研（osakashoriku@gmail.com）へメールで問い合わせのこと）

▼大会ページ：

<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1504/>



昨年大会日本選手権室内男子三段跳は伊藤陸（近大高専）が優勝。最終跳躍で16m23の記録を出し、U20室内日本新をマークした。



昨年大会日本選手権室内女子60mHでは青木益美（七十七銀行）が8秒11で優勝。21年ぶりに室内日本記録を更新した。この他、男子60mH予選で5選手が室内日本記録を上回るなど好記録が続出した。



一般財団法人北海道陸上競技協会

〒003-0626 札幌市白石区本通5丁目南4番11号
KJビル3号棟2階205
TEL.011-598-7407 FAX.011-598-7408
http://hokkaido-rikkyo.jp/

今年は選手・関係者にとって大変残念な1年となりました。そんな中、10月に全国高等学校陸上競技2020、全国中学生陸上競技大会2020を開催いただき、選手が日頃の努力の成果を全国大会で発揮する場を作っていました。例年とは違う対策・準備を施し開催してくださいました。主催の日本陸上競技連盟、開催地の広島陸協、神奈川陸協の皆様により御礼申し上げます。3年生は今年の悔しさを胸に次のステージで輝いてくれるものと信じております。

10月、千歳市にて長距離の強化を目的とした「ディスタンスタイムトライアル」を開催しました。マラソンランナーの川内優輝選手（AD損保）にもお越しいただき、中高生とのレースに出場してくれました。一緒に走った中高生選手にとってこの経験は必ず財産になると思っております。道内で毎年開催されるホクレンディスタンスチャレンジを参考にし、スタート後は音楽を流し、トップアスリートの川内選手のおかげもあり、大会は大変盛り上がり、コロナ渦で心が沈んでいた北海道の陸上界に元気を与えてくれました。このようなイベント要素を含んだ大会は非常に面白く、今後も新しい企画を考えていく所存です。直線競技のみに特化した大会、フィールド競技に特化した大会など、いままですの大会の他に、盛り上がりを重視した大会運営をすることが現代の選手や観客のニーズであると思っております。競技役員の高齢化、働き方改革による人員の減員など課題は山積ですが、選手が輝く場所を提供することが協会の使命であると思っておりますので、関係者で創意工夫し、こんな時代だからこそポジティブに進めてまいります。



一般財団法人青森陸上競技協会

〒039-3505 青森県青森市大字宮田高瀬2-2
新青森県総合運動公園カクヒログループアスレチックスタジアム内
www.jomnon.ne.jp/arikkyo/

2020年度の競技会等については、新型コロナウイルス感染防止の観点から計画された事業は中止及び延期等に対応いたしました。日本陸連からの感染防止ガイドラインに従い観客を入れての競技会開催でしたがトラブルもなく終了できました。

今年度の全国で活躍した選手は、全国中学男子100m 1位の水野琉之介選手（3年）・日本選手権女子ハンマー投5位の村上来花選手（2年）。村上選手は、全国高校新記録・U18・U20の日本新記録を樹立いたしました。全国中学通信陸上競技大会では、男子100m 1位の水野琉之介選手（3年）。リモート高校陸上競技大会では、高校女子ハンマー投1位の村上来花選手（2年）、男子3000m障害1位のジョウキアリュ（2年）・同3位の村上大樹選手（3年）・女子円盤投2位の石澤美南海選手（2年）・大学生では、全日本インカレ男子やり投3位の工藤辰郎選手・女子やり投4位の奈良岡翠蘭選手。U20では、女子800m 1位の山口光選手・同女子円盤投2位の菊池聖奈選手。同女子やり投4位の山形智香選手等が活躍してくれました。

例年、これから本格的に冬期の選手強化が計画されておりますが、都道府県対抗の駅伝が中止となり計画の変更を余儀されているところであります。今後予定されている強化事業としては、1月から3月にかけては中高生の強化選手を中心とした県内及び県外での強化合宿を計画しております。また、会議としては、1月17日三役会議。2月7日通常理事会。2月21日定時評議員会を予定しているところであります。

国民体育大会も中止となり、予定されておりました2025年度青森県体も1年延期となりました。選手の強化面についてはもう一度6年後に対象となる選手の見直しを検討しなければなりません。

（文責：理事長 安田信昭）



一般財団法人岩手陸上競技協会

〒020-0822 盛岡市茶畑2-8-27
TEL.019-621-8460 FAX.019-656-9006
https://iwate-rk.com/

今年は、全国各地でコロナ禍による競技会の中止や大幅な日程変更を強いられた1年でした。本県では7月以降の日程変更した競技会は選手、指導者、競技役員、保護者の方々の感染症防止対策の協力により観客を認めながら競技会を順調に開催することができました。今年度の競技会では開催時期が遅かった分、選手自身の大きな期待と希望に満ちていたことからの大会も例年の参加人数を上回るなど予想以上の盛況さで躍動感溢れる選手の競技に取り組む姿を目の当たりにして関係者一同が安堵する姿が見られました。

他に8月の東北マスターズ大会は中止となりましたが、東北高校新人大会、北日本学生大会、東北高校駅伝大会は一般の方の応援は自粛した中で無事に開催することができました。

特筆すべき選手の活躍としては、全日本実業団陸上で大石沙也加（セレスポ）が女子200m優勝、U20日本選手権では宮崎剛翔（東海大）の男子砲丸投優勝があげられます。今年度は県記録3種目（男子110mH、男子5000m競歩、女子200m）、県高校新記録1種目（男子5000m）、県中学新（タイ）記録2種目（男子100m、女子走高跳）と全国でも上位にランクされる記録が更新し、来シーズンが大いに期待されます。11月から各ブロック毎の強化事業も開始され、冬の積雪、厳しい寒さの中でのトレーニングになりますが来年の全国大会での活躍に向けて本格的に始動中です。



一般財団法人宮城陸上競技協会

〒981-0122 宮城郡利府町菅谷字第40-1宮城県総合運動公園内
TEL.022-767-2194 FAX.022-781-5524
http://jaaf-miyagi.com/

コロナ禍の中、本県では7月下旬から新しい競技会運営を模索しながら大会を開催し始めました。

8月には、高校総体の代替大会や県選手権大会・中学通信大会等が開催され、選手たちの躍動する姿が見られるようになりました。感染予防に関する仕事が増え、役員の負担は増えましたが、選手や保護者の皆様にも御協力をいただき、無事に大会を運営することができました。大会開催に関わった全ての皆様に感謝いたします。

秋に行われた各種全国大会では、青木益未選手（七十七銀行）が日本選手権並びに全日本実業団大会の女子100mHで優勝。菅野航平選手（仙台第一高）は全国高等学校陸上競技大会男子400mHで優勝。三浦由奈選手（筑波大学）はU20全国陸上競技大会女子100mで優勝。吉居大和選手（中央大学）は日本インカレ男子5000mで優勝と活躍しました。また、米澤奈々香選手（仙台育英高）が日本選手権の女子1500mで、高校生ながら第2位という成績も特筆に値するものです。他にも中学・高校のランキングで上位に入った選手がいました。練習時間や練習場所等が制限された中での活躍は、見事と言えるでしょう。

10月には全日本大学女子駅伝、11月には全日本実業団女子駅伝が今年も宮城を会場に行われます。新型コロナウイルスの終息はまだ先のようなのですが、より一層の感染予防対策を図りながら、全国の選手をお迎えできるように、宮城陸協一丸となって準備をしています。

来年度は役員改選の年ですので、郡市町陸協の協力を得ながら、スムーズな引き継ぎができるように計画的に進めていきたいと思っております。（文責：総務委員長 山田 信）



陸協NEWS



JAAF AKITA 一般財団法人秋田陸上競技協会

〒010-0974 秋田県秋田市八橋運動公園1番5号
秋田スポーツ科学センター内
TEL.018-838-7416 FAX.018-838-7417
<http://jaaf-akita.com/>

近年、本県で開催された東日本規模・東北規模の上級大会は次のとおりです。高いレベルで競い合う競技内容に多くの県民が感動をもらいました。

| | |
|---------|-------------------|
| 2016年8月 | 東北中学校陸上競技大会 |
| 2017年5月 | 東日本実業団陸上競技選手権大会 |
| 2017年8月 | 東北総合体育大会陸上競技 |
| 2018年8月 | 東日本医科学生総合体育大会陸上競技 |
| 2018年9月 | 東北高等学校新人陸上競技選手権大会 |
| 2019年6月 | 東北高等学校総体陸上競技 |

県内唯一の日本陸連公認第1種競技場である「秋田県立中央公園陸上競技場」は、1984年の「秋田インターハイ」開催に合わせ完成し、2007年に「秋田わか杉国体」も開催しています。2019年にはIAAF（国際陸連）認証クラス2も取得しており、県内の競技者にとっては、インターハイや国体が開催された競技場で競技することが大変励みになっています。

2022年には「日本選手権混成競技」の開催が内定しており、日本トップアスリートのパフォーマンスを県民が間近に見ることができ、このことは将来秋田から世界に羽ばたくジュニア世代の競技力の強化・育成にも繋がるものと思っています。

このような機会をくださった日本陸上競技連盟様には大変感謝しております。ただ、本競技場は、東北6県中で唯一、「大型映像装置」が設置されていない県営競技場として話題になることがあります。

(※47都道府県の県営陸上競技場の中で、未設置は秋田県のみともいわれています。) 毎年、県へ要望していますが、高額の費用を要するため、なかなか理解が得られないのが正直なところです。今年は特に新型コロナウイルス対策の影響により、地方自治体を取り巻く財政状況はさらに厳しさを増しています。このような悩みを抱えているのは、秋田県だけでしょうか。

一日も早く全国の県営陸上競技場と肩を並べる競技場になるよう、引き続き要望してまいります。(文責：理事長 安田真人)

JAAF FUKUSHIMA 一般財団法人福島陸上競技協会

〒960-1192 福島県福島市古川14-1 信夫ヶ丘競技場内
TEL. 024-572-5272 FAX. 024-505-4948
<http://gold.jaic.org/fukushima/>

新型コロナウイルス（COVID-19）の影響で、各種大会・強化練習会等の中止や日程変更を余儀なくされましたが、「陸上競技活動再開のガイダンス」に基づき、8月には規模を縮小し福島県陸上競技選手権大会兼高校体育大会代替大会を開催いたしました。この大会を開催できたことは、選手及び陸上競技関係者はもちろんのこと県民にも勇気と感動を与えるものとなりました。

また、9月以降の大会については、参加人数の制限、種目数の精選、日程の工夫、無観客での実施等、「3つの密」を避けるための対策を講じて開催いたしました。

しかし、県内各地でのロードレース・マラソン大会に関しましては、その多くが中止となりました。特に東北陸協主催で日本陸連の援後をいただいで、本陸協が長年主管してきました「第36回東日本女子駅伝競走大会」が中止となったことは残念でなりません。

そのような中でも、県中学・高校駅伝を開催し、第32回「市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会（通称ふくしほ駅伝）」を通常16区間95.0km（白河市～福島市）のところ、郡山市の郡山ひろせ開成陸上競技場をスタート、福島市の県庁前にフィニッシュする9区間で50.2kmに縮小して県内59市町村53チームの参加のもと開催いたしましたことは、多くの長距離ランナーの励みとなったものと考えております。

さて、新型コロナウイルス（COVID-19）の影響で、各種競技会の開催、強化練習会の実施等に向けて問題はまだまだ山積みですが、これを好機と捉え、実施方法・規模・内容の精選等について再構築していかなければならないと思っております。

最後に、2年間（2019・2020年度）務めました東北陸協の事務局を、来年度から岩手陸協に引き継ぎます。東北各県の陸協の皆様には様々な御協力をいただき、誠にありがとうございました。至らない点もあつたかとは思いますが何かとやり違えることが出来ました。今後は、コロナ対応など何かと大変な時期ではありますが、岩手陸協の皆様、どうぞよろしくお願いたします。(文責：事務局長 赤沼健一)

JAAF YAMAGATA 一般財団法人山形陸上競技協会

〒994-0103 天童市大字川原1445番地の2
TEL.023-657-3070 FAX.023-665-5579
<http://jaaf-yamagata.jp/>

新型コロナウイルス感染拡大の影響で多くの競技会が中止、延期され選手達の活躍する場が奪われていく中、遅れていた今シーズンの大会が7月からやっとスタートしました。感染拡大防止対策・安全対策等、様々な事項に配慮しながらの競技会運営でした。まさに、コロナ禍で変わる陸上界！「with コロナ時代」らしい新様式に合わせた新しい形の競技会運営です。

このように4月から6月まで目標とする大会もなく、日々のトレーニングも十分に出来ず、モチベーションを保つのが厳しい状況の中で、その後の大会では、大学生や中高生の活躍が目立ちました。

福岡県で開催された北九州陸上カーニバルでは、齋藤真希選手（東女体大・鶴岡工高出）が55m53のU20日本新記録で優勝。齋藤選手のU20日本記録更新は、3月の大学での競技会、日本選手権に続き今シーズン3度目となります。また、全国中学生陸上競技大会2020では、高橋大史選手（上山南中）が、男子四種競技で3091点をマークして中学記録を16年ぶりに塗り替え中学日本新記録で優勝。チームとして男子4×100mRのアンカーを務め42'71（中学歴代7位）で優勝し2冠を達成しました。

そして、2020全国高等学校リモート陸上競技選手権大会で、高橋夢華選手（九里学園高）が女子100mHで13'93でランキング1位となるなど、4種類の「日本一」に輝きました。この多くの活躍は、本県陸上競技関係者に大きな喜びと感動をもたらしました。2020年はコロナ禍で異例のシーズンとなりましたが、苦境を乗り越えた選手の来シーズンの飛躍が楽しみです。(文責：常務理事 矢口和代)

JAAF IBARAKI 一般財団法人茨城陸上競技協会

〒310-0031 水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
TEL.029-246-5483 FAX.029-246-5484
<https://ibaraku.com/>

新型コロナウイルスに翻弄された一年になりました。夏場に向かい衰退の兆しが見えた一時期には、このまま霧散するかと期待を抱いたものでした。しかし、その後も拡大期と休止期を経ながら、ここに至り第3波ともいべき感染拡大の様相を呈しています。ワクチン開発にしても諸説飛び交っているようですが、やはり長期的な対応は覚悟しなければならぬようです。そういった中、トラックシーズン開幕を期して強化委員会を開催し、コロナ禍で停滞した競技力について、話し合いを持ちました。

クラスター回避の面からも合宿は行わない代わりに、選手のモチベーション維持と競技力向上を図るため頻回に練習会を実施し、この難局を打破しようとの結論に達しました。改めて、当たり前の日常が取り戻せないもどかしさを実感したものです。

さて、本県は第48回全日本中学校陸上競技選手権大会を、2021年8月17日（火）～20日（金）まで、昨年の茨城国体の会場となった笠松運動公園陸上競技場で開催します。コロナの動向も懸念されるところですが、本県中体連は、2年連続の中止は是が非でも阻止したいとの使命感に燃え、様々な感染防止策を模索しながら準備に邁進しています。近未来、日本の陸上界を担う若きアスリートの皆さんには、「関東 蒼空（そら）へと放て 君の夢」のスローガンのごとく、夢の実現を目指し、ここ茨城の地で大いに光り輝くことを期待しております。

結びに、2021年がコロナ禍を克服した記念すべき年となることを願ってやまいとこころです。(文責：理事長 潮田 茂)

事務局からのお知らせ

◆◆難しすぎる陸上クイズ 第5弾 -長距離種目編- シリーズ最難関の問題に挑め!!◆◆

12月4日(金)に「第104回日本陸上競技選手権大会・長距離種目」を大阪府・ヤンマースタジアム長居にて開催。ファンの皆様に少しでも大会を楽しんでいただけるよう「難しすぎる陸上クイズ第5弾-長距離種目編-」を作成いたしました。

クイズシリーズ第5弾となる今回は日頃から陸上界を応援し、支えてくださるファンの皆様から問題を募集し、クイズを作成しております。

陸上界のレジェンドたちも続々登場しますので是非挑戦してみてください!!



▼難しすぎる陸上クイズ-長距離種目編-はこちら

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/14508/>



◆◆【2020年度“日清食品カップ” 都道府県大会】大会ダイジェスト◆◆

7月から9月に開催された、“日清食品カップ”都道府県小学生陸上競技交流大会の様子を、種目ごとのダイジェスト動画にまとめました。

選手たちの輝く姿を是非ご覧ください!

10月、11月のダイジェスト動画も作成中です! お楽しみに!



▼ダイジェスト動画はこちら

<https://bit.ly/3685UZq>



▼大会ページはこちら

<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1472/>



陸連時報編集委員

◇編集委員

横川 浩 (陸連会長)
友永 義治 (陸連副会長)
八木 雅夫 (陸連副会長)
尾縣 貢 (陸連専務理事)
麻場 一徳 (陸連強化委員長)
風間 明 (陸連事務局長)
牧野 豊 (陸上競技マガジン編集長)

◇時報編集室責任者

大嶋 康弘
◇時報編集担当
繁田 進
石塚 浩
木越 清信
宮田 宏
石田 夢

陸連時報編集室

〒160-0013
東京都新宿区霞ヶ丘町4-2
JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階
日本陸上競技連盟内
TEL : 050-1746-8410
FAX : 050-3588-1869